

## ふるさと・きずな維持・再生支援事業 事業提案書

### 【申請団体】

申請団体名	特定非営利法人プロジェクト FUKUSHIMA
(協議体の場合のみ) 代表団体名	
(申請団体の) 代表者の職・氏名	理事長・大友良英
協議体構成団体①	
協議体構成団体②	
協議体構成団体③	
協議体構成団体④	

### 【団体情報】

団体ホームページ	<a href="http://www.pj-fukushima.jp">http://www.pj-fukushima.jp</a>
又は公開予定日	

※情報公開を行っておらず、かつ公開する見込みのない団体については応募できません。

### 1 事業名

プロジェクト FUKUSHIMA!の活動

### 2 事業の目的及び地域課題（200字以内）

※ 今回申請する事業を実施することにより解決を図ろうとする、東日本大震災、若しくは、原子力災害を契機とした地域課題を記載下さい。

福島から文化を発信していく、福島をポジティブな場所に変えていく、ということを目的に、震災後の福島でフェスティバルを中心に様々な活動を続けてきました。今年も継続して盆踊りの祭りを開催予定です。盆踊りや福島大風呂敷、インターネット放送などのプロジェクトを通して、原発災害を契機に生まれた様々な分断や対立などの問題に継続的に向き合い、立場や考えの異なる人々が集い、語らう場を作り、福島発の文化を発信していきます。

### 3 事業の必要性（200字以内）

※ 当該事業を実施するにあたり、そのニーズを把握している場合は、具体的に記載願います。

時間経過と共に複雑化・進化する福島を巡る困難な状況の中でこそ、現実とどう向き合うか、その視点と方向性を人々に示唆する力を秘める音楽や詩やアートなど「文化」の力が必要だと私たちは考えています。これまでの県内外での活動の広がりからもそのニーズは明らかでしょう。祭りや独自のメディアによる発信を通して福島から生まれる文化が、福島で希望を持って生きていく原動力となることを目指します。

#### 4 事業内容

##### 【実施取組 1】

(取組内容がわかる見出しを記載する)「フェスティバル FUKUSHIMA! 納涼!盆踊り」の実施

主な活動地域：福島市

実施期間：H27/6月～H27/3月末

##### 【取組内容】(100字以内)

※ 上記2の地域課題解決、及び、上記3の事業の必要性のため、どのような事業を実施するのか具体的かつ簡潔に記載願います。

震災後、毎年8月に福島市で開催してきた「フェスティバル FUKUSHIMA!」を継続開催。会場づくりから、盆踊りの曲や踊り、生演奏にいたるまで、参加する人たち自らの手で、福島から発信する祭りを作り上げる。

##### 【実施取組 2】

(取組内容がわかる見出しを記載する)インターネット放送局「ドミューン FUKUSHIMA!」の運営

主な活動地域：白河市

実施期間：H27/6月～H28/3月末

##### 【取組内容】(100字以内)

※ 上記2の地域課題解決、及び、上記3の事業の必要性のため、どのような事業を実施するのか具体的かつ簡潔に記載願います。

独自のインターネット放送局にて、今年は白河市を拠点に継続的に番組配信を4回以上行う。農業・漁業・住民・行政・医療など、日々進化する福島を取り巻く問題を、社会学者・開沼博氏と音楽家・大友良英氏らのフィルターを通して見ることで掘り下げていく。

※実施取組に合わせて、数を追加してください。

#### 5 事業効果 (各200字以内)

※ 当該事業を実施することにより、どのような効果が生まれるか具体的に記載してください。

・福島からの文化発信・継続的な活動の場づくり

→ 地域、世代、価値観などの境界を越えた人々の交流を生み出し、福島で希望を持って生きていく原動力につなげる

・県外からの来場者を誘致

→ 福島の実現と、地域が抱える問題を共有し、議論を促し、行動する人材、ボランティアを育成

・福島が外とつながりを持ち、希望を持って福島の未来を考えること

→ 震災後の日本の未来を考えることや、地域社会の再生につなげる

**【情報発信力】復興関連の取組（イベント等）を事業の主な目的としている場合のみ記載**

・各種メディア、県外のアートフェスティバルを通じての広がり

「あまちゃん」の音楽で知られる福島育ちの音楽家・大友良英を中心につくられたオリジナルの盆踊りと、相馬盆唄など伝統的な盆踊りのアレンジを織り交ぜた祭りは、多くのメディアからも注目を集め、強力な発信力を持っている。また、「札幌国際芸術祭」「フェスティバル／トーキョー」「あいちトリエンナーレ」など県外のアートフェスティバルからも招致され、各地で数千人～1万人以上の来場者が集まるなど、年々注目度は増している。

・独自に運営するインターネット放送を通じての広がり

インターネット放送局としては非常に影響力の高い「ドミューン」の福島支局として独自の運営を行っている「ドミューン FUKUSHIMA!」。本家ドミューンのブランド力もあって、毎回数千～1万以上の視聴者数を誇っている。音楽家・大友良英と、福島出身で気鋭の社会学者・開沼博をホストにした番組配信を継続的に行い、一層深く、広く福島からの情報を発信する。

## 6 実施団体の運営力強化（各200字以内）

**【人材育成の観点】** ※活動を通じた外部専門家の招聘や研修の実施により、団体スタッフの専門的知識やノウハウの獲得が見込まれる点について記載してください。

これまで当プロジェクトの活動のための有給スタッフは1名のみで、無償のボランティアの活動、いわゆるプロボノに頼る部分が多かったが、外部のアートプロジェクト運営の専門能力を有するスタッフを含め、有償の運営スタッフを増やし、当プロジェクトメンバーにノウハウを蓄積し、プロジェクト運営を継続的なものにしていく。

**【ネットワーク形成の観点】** ※活動を通じて復興・被災者支援に関する地域間、支援団体間の情報共有やノウハウの移転等を実施するものについて記載してください。

当プロジェクトの活動は県内外でも大きな注目を集め、これまでも「あいちトリエンナーレ」「札幌国際芸術祭」「フェスティバル／トーキョー」など県外のアー

トフェスティバルに招致されている。各地の県外避難者も参加して、それぞれの地で福島大風呂敷の作業が行われることで、各地で福島の抱える問題への理解が深まり、その後も相互での交流が始まっている。札幌・東京・愛知では、今年度も継続的な活動が予定されている。

## 7 事業スケジュール（月ごと、箇条書き）

月	実施取組 1	実施取組 2
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「フェスティバル FUKUSHIMA!2015 納涼！盆踊り」の準備</li> <li>・盆バンドのワークショップ</li> </ul>	・ドキュメント FUKUSHIMA!放送 第1回
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「フェスティバル FUKUSHIMA!2015 納涼！盆踊り」の準備</li> <li>・盆バンドのワークショップ</li> <li>・福島大風呂敷のワークショップ</li> </ul>	
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「フェスティバル FUKUSHIMA!2015 納涼！盆踊り」開催（福島市）</li> <li>・盆バンドのワークショップ</li> <li>・福島大風呂敷のワークショップ</li> <li>・福島大風呂敷を広げた盆踊りの実施（札幌）</li> </ul>	・ドキュメント FUKUSHIMA!放送 第2回
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・招致による福島大風呂敷を広げた盆踊りの実施（東京・天王洲）</li> </ul>	・ドキュメント FUKUSHIMA!放送 第3回
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・招致による福島大風呂敷を広げた盆踊りの実施（神戸）</li> </ul>	
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・招致による福島大風呂敷を広げた盆踊りの実施（東京・池袋）</li> <li>・招致による福島大風呂敷を広げた盆踊りの実施（愛知県豊田市）</li> </ul>	
12月		・ドキュメント FUKUSHIMA!放送 第4回
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記録まとめ</li> </ul>	
2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記録まとめ</li> </ul>	
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記録まとめ</li> </ul>	

※表が足りない場合は、適宜追加してください。

## 8 事業の実現性について（200字以内）

※ 当該事業が計画倒れとならないよう、現時点で確定していることや、これまでの経験・実績などを踏まえて当該事業の実現の可能性を具体的に記載してください。

2011年以降5回目、盆踊りとしては同じ場所で3回目となるこれまでの経験を生かし、今夏も継続開催に向けてすでに準備をはじめている。ただしすべてボランティアベースの準備になるため、今後の継続開催に向けて有償スタッフも継続したい。

## 9 事業終了後の展開・発展性（200字以内）

※ 仮に平成27年度補助金に採択された場合、平成28年度以降の事業展開について記載してください。

経験のある有償スタッフからのノウハウ獲得、県外在住の出身者の有償スタッフ登録など、さらなる継続開催に向けた体制づくりを行うと同時に、H28年度以降も進化する原発災害以降の福島の問題を織り込んだ文化の発信を行う祭りの実施と放送局の運営を、発展的に継続していく。

## 10 事業の先進性・普及性（200字以内）

※ 震災を契機とした課題に対する取組であり、申請した取組がどのような先進性を有するか、どのようにして他のモデルとなるかを記載してください。

先進的なモデルになっている。

また、他県に招致される出張フェスティバルを通じた現地での県外避難者を含めた人々との交流なども、福島の問題への理解を広め普及する効果が見込まれる。

## 11 特記事項（アピールポイントなど）（200字以内）

※ 特に説明しておきたい事項、アピールポイントありましたら記載してください。

たくさんの人たちの手で演奏し、歌い踊る私たちの盆踊りの中で、フォークダンスのように隣り合った人と手をつないで踊る場面があります。その祭りの会場に敷き詰められる色とりどりの大風呂敷は、日本各地から送られた様々な布を、集まったボランティアの手によって縫い合わされたものです。多様な価値観を多様なまま認め合う姿勢を体現するような、震災後の福島だからこそ生まれた文化を、日本全国、世界に向けて発信していきたいと思えます。

## 12 その他の助成金について

① 当該申請事業について、他の助成金も受けている。 答えが「はい」の場合のみ②へ	<input checked="" type="checkbox"/> はい / <input type="checkbox"/> いいえ
② 他の助成金を受けているが、当該申請事業と明確に区別することができる。	<input checked="" type="checkbox"/> はい / <input type="checkbox"/> いいえ

※ 他の助成金を受けた事業と明確に区別できない場合は応募できません。

第3号様式（第4条関係）

ふるさと・きずな維持・再生支援事業 収支予算書

申請者名 特定非営利活動法人プロジェクト FUKUSHIMA

【支出の部】

（単位：千円）

区 分	平成 27 年度 予 算 額	明 細
人件費（共済費を含む）	2,241	・事業専従者 200 千円×1名×5ヶ月 ・事務補助 50 千円×4名×5ヶ月 ・インターネット放送従事者（フェスティバル時）9.3 千円×10名×1日 （定期放送4回）9.3×4名×4
報償費	772	・出演アーティスト報償費 20 千円×20名・出演者報償費（フェスティバル、インターネット放送）9.3 千円×30名 ・撮影等記録者報償費 9.3 千円×5名×2日
旅費	1,116	東京⇄福島 16.86 千円×50回 東京⇄白河 12.3 千円×8回 白河⇄仙台 11.5 千円×4回 仙台⇄福島 6.32 千円×3回 私有自動車使用 400km×25 宿泊費 5 千円×20回
需用費 a1+b1+c1	150	
消耗品費 a1	140	事務用品など 10 千円/月×4ヶ月 大風呂敷クリーニング代 100 千円
燃料費 b1	10	ガソリン代 10 千円
印刷製本費 c1		
役務費 a2+b2+c2	83	
通信運搬費 a2	50	インターネット放送（フェスティバル）のための光回線契約 30 千円 ポスター・チラシ等郵送費 20 千円
手数料 b2	8	振込手数料 5.8 千円 収入証紙（道路使用許可書）2.2 千円
保険料 c2	25	ボランティア・機材保険 25 千円
使用料及び賃借料	50	会場使用料（バンド練習会場・男女共同参画センターなど）50 千円
委託料	500	フェスティバル会場設営 500 千円
A. 支出合計	4,912	千円未満切捨

【自己資金の部】※自己資金は支出合計の2割以上が必要です。

(単位：千円)

区 分	平成 27 年度 予 算 額	明 細
自己資金（負担者名）	983	
寄付金等	983	のぼり旗寄付金
その他収入		
事業収入		
B. 自己資金合計	983	千円未満切捨

【補助金交付申請額】 3,929 千円 (A. 支出合計－B. 自己資金合計)

- 注1 用紙の大きさは、A列4番とすること。欄が足りない場合は、適宜追加してください。
- 注2 「明細」欄には各区分の積算内訳として、名称、数量、単価、金額を必ず明確に記載すること。なお、「明細」については別紙として添付しても差し支えない。仕様については別途資料を添付すること。
- 注3 行政による他の補助事業も併せて利用する場合は、各補助金の使途を明確に区分し、この資金計画には、ふるさと・きずな維持・再生支援事業補助金を使用する部分の収支のみ記載すること。他の補助事業にかかる収支についてはこの資金計画には計上せず、別様式にて収支予算書を添付すること。また、他の補助事業の内容が分かる補助金交付要綱、要領等、使途の区分が分かる資料を添付すること。